



testo 521/526用
ソフトウェア・モジュール

取扱説明書





本説明書の一部または全部をテスト社の事前の許可なしで、転載、複製することを禁じます。

本説明書の内容は、機能向上のため予告なく変更することがあります。

Microsoft、Windows、Excel、インターネット・エクスプローラ等は、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。

はじめに

お客様へ

testo521/526用ソフトウェア・モジュールをご購入いただき、ありがとうございます。

本ソフトウェアは、testo521/526ポータブル差圧計をPCと接続して、計測データの保存や解析、プログラミングなどが行えます。

ご使用の前に、この取扱説明書をよくお読みいただき、正しい取り扱い方法をご理解ください。

ご不明な点、あるいは問題が発生した場合は、テストーの各営業所にお問い合わせください。

テストーのカスタマー・サービスはお客様第一であり、迅速に問題の解決をはかるため最善を尽くします。

説明書について

この説明書で使用している、警告や注意事項を表す記号の意味は次の通りです。

警告

警告は下記のような記号で表示されます。マークの下の文字は危険の度合いを示します。



警告！ この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または傷害を負う可能性が想定される内容を示しています。

注意！ この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負ったり物的損害が発生することが想定される内容を示しています。

警告/注意

すべての警告を注意深くお読みいただき、危険のない安全な計測をお心がけください。

重要情報

! このマークが付いた説明は、取り扱い上の注意や重要事項に関する情報です。

521

機能や表示画面が機種によって異なる場合、該当する機種を示します。

526

両者が併記されている場合は、両機種に共通です。

目次

はじめに.....	1
目次	2
使用許諾契約書	3
1. 概要	4
2. インストール	5
2.1 システム要件	5
2.2 ソフトウェアのインストール	5
3. 使用方法	6
3.1 testo521/526とPCの接続	6
3.2 接続の設定	7
3.3 接続の開始	8
3.4 testo521/526のメイン画面(プロパティ)	9
3.4.1 「計測器」ウィンドウ	10
3.4.2 「機能設定」ウィンドウ	11
3.4.3 「ダクト・サイズ」ウィンドウ	17
3.4.4 「プログラム」ウィンドウ	18
3.5 高速計測.....	20
モニター機能.....	21
機能設定	22
3.6 計測器内のLocation(タイトル)表示の順序変更	23
4. トラブルシューティング	24

この使用許諾契約書は、Testo AG(以下、Testo社)とお客様との間に締結される、法的に拘束力をもつ契約書です。お客様、あるいはお客様の委任を受けた第三者が、封印された本ソフトウェアCD-ROMパッケージを開封すると、お客様は本契約書の条項に拘束されることに同意されたことになります。本契約書の条項に同意されない場合は、未開封のソフトウェア・パッケージを、付属する説明書やその他の文書、ボックス等と共に、販売元に速やかにご返品ください。ご購入代金全額をお返しいたします。

ライセンスの許諾

お客様は本ソフトウェア製品のコピー1部を、コンピュータ1台にインストールして使用することができます。複数のコンピュータで同時に使用することはできません。複数ライセンス契約の場合、お客様は、許諾されたライセンス数を限度として本ソフトウェアのコピーを保持、使用することができます。その場合、本ソフトウェアがメモリ、すなわちRAMにロードされたり、あるいはハード・ディスク等に保存されている場合、本ソフトウェアを使用しているものとみなされます。例外は、他のコンピュータへの配信のみを目的としたネットワーク・サーバにインストールされたソフトウェア・コピーであり、この場合使用しているとはみなされません。本ソフトウェアの使用数が、お客様に許諾されているライセンス数を超える恐れがある場合、お客様は、ライセンス数の範囲内にソフトウェア使用数が収まるよう客観的に妥当な手段をとるものとします。

著作権

本ソフトウェアは、著作権法および著作権に関する条約、その他の知的財産権に関する法律によって保護されています。本ソフトウェアおよびその説明書、その他の付属文書を複製することは禁止されています。本ソフトウェアの再ライセンス許諾、レンタル、リースは行えません。ソフトウェアのバックアップ・コピーが提供されない場合、お客様は、バックアップ・コピーを1部に限り作成することができます。あるいは、オリジナルをバックアップ目的以外に使用しないという条件で、ハード・ディスク上にソフトウェアを転送、保持することができます。リバース・エンジニアリング、逆コンパイル、逆アセンブルは認められません。お客様あるいはその委任を受けた第三者が、著作権保護に関する権利を侵害した場合、Testo社により訴追される恐れがあります。

保証の限定

Testo社は本ソフトウェアが付属文書にしたがって動作することを、購入日から90日間、あるいはお客様が購入された国の法律に別段の定めがある場合はその最短期間について保証します。Testo社は、本ソフトウェアが中断あるいは誤りなく動作することを一切保証いたしません。本ソフトウェアが付属の文書にしたがって実質的に動作しない場合、保証期間内に限りお客様は、不具合の状況を記述した書面を添付してTesto社にソフトウェアを返却する権利を有しています。その場合、Testo社はその判断により、合理的な期間内に、ソフトウェアを交換するか、あるいは何らかの理由で交換が不可能な場合は、購入代金を全額返還するか、のいずれかで対応するものとします。

本保証規定に規定されていない、ソフトウェア、付属するマニュアル、その他文書類に関する保証は一切いたしません。

また、Testo社とTesto製品販売業者のいずれも、Testo製品の使用中に生じた損害、あるいは、使用不能により生じた損害についていかなる責任も負わないものとします。Testo社等が損害の可能性について知らされていた場合も同様です。ただし、Testo社の故意あるいは重大な過失により生じた損害は除外されます。また、特別な約定がある場合も除外されます。

1. 概要

1. 概要

本ソフトウェア・モジュールを使用すると、testo521および526ポータブル圧力計の各種機能や計測プログラムの設定を行ったり、計測データをPC上に取り込んで、データ評価や保存を行うことができます。

計測値のグラフ化も、このソフトウェアの重要な機能として挙げることができます。

本ソフトウェア・モジュールと圧力計やプローブの組み合わせにより、

- testo521およびtesto526圧力計用計測プログラムの作成。
- 計測スケジュールの作成。
- 計測データ印刷用ヘッダーの設定。
- 標準オンライン計測。
- 特殊な高速オンライン計測。
- トリガの設定による圧力の監視や記録。
- 計測値のグラフ表示、印刷。

などが可能となります。

この取扱説明書は、読者がWindowsに関する基本的な操作方法は理解していることを前提に書かれています。Windowsの操作方法については、Windowsの説明書などをご覧ください。

2. インストール

2.1 システム要件

最小システム構成

- PCおよびオペレーティング・システム
 - Microsoft Windows 95 または互換性のある上位バージョン
 - Microsoft Windows NT4.0、Servicepack 4 または互換性のある上位バージョン
 - Windows 2000 または互換性のある上位バージョン
- CD-ROMドライブ
- プロセッサ: Pentium 100 MHz以上
- RAM: 32 MB以上
- ハードディスク空き容量: 15 MB以上
- シリアル・インタフェース(COM)または対応するアダプタ

2.2 ソフトウェアのインストール

ソフトウェアのユーザー・インタフェース(見た目と使い心地)は Microsoft Office製品の標準に準じて定義されています。アイコンやメニュー項目もこの標準に準じて作成されています。したがって、Officeの各プログラム(Word、Excel、PowerPointなど)を使用したことがある人は、本ソフトウェアのユーザー・インタフェースにもすぐに慣れることができます。

インストール方法

testo521/526の計測プログラム作成などを行うためには、ComSoftソフトウェアがインストールされているPCが必要です。

ComSoftソフトウェアのインストールや操作方法に関しては、ComSoftの取扱説明書をご覧ください。

ソフトウェアのインストールが終了したら、次ページの3.1「testo521/526とPCの接続」へお進みください。

3. 使用方法

3. 使用方法

521 526

3.1 testo521/526とPCの接続

testo521/526をPCに接続するためには、PC側にシリアル(RS232)インタフェースが必要です。

USBインタフェースしかない場合は、USB-シリアル変換アダプタが必要となりますので、別途準備してください。

テストが推奨するアダプタは、ComSoftソフトウェア上での機能を確認済みである、Belkin社のF5U103です。

- 1 シリアル接続ケーブル(製品型番:0409.0178)をPCに接続します。
- 2 接続ケーブルの他方をtesto521/526に接続します。
- 3 ComSoftソフトウェアを起動します。

521 526

3.2 接続の設定

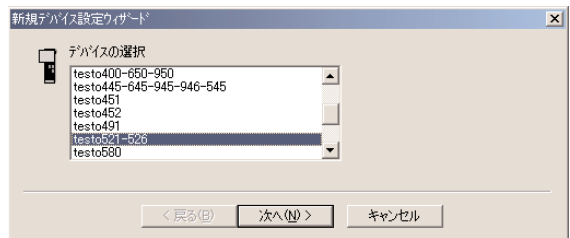


- 1 ComSoftソフトウェアを起動します。
- 2 メインメニューの「計測器」→「自動検出」を選択します。
 - 自動検出ウィンドウが開きます。
 - 接続されている計測器が自動的に検出され、接続機器名がアーカイブ (archive) 領域に表示されます。



-または-

- 2 メインメニューの「計測器」→「新規デバイス」を選択します。
 - 新規デバイス設定ウィザードが開きます。
- 3 デバイスの選択ウィンドウで、testo521-526を選択し、「次へ」をクリックします。



- 4 接続ポートの中から、計測器とPCの接続に使用しているインタフェースを選択し、「次へ」をクリックします。
- 5 この接続の名前を入力して、「完了」をクリックします。

3. 使用方法

521 526

3.3 接続の開始

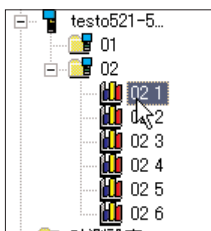


- ▶ アーカイブ領域のなかのオープンしたい接続機器名をダブル・クリックします。
- 計測データがtesto521/526に保存されている時は、計測値データのアイコンとそのデータ名が接続機器名の下に表示されます。



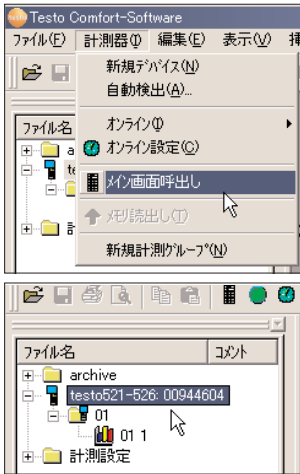
! 接続が完了しても、testo521/526に保存されている計測データはPCに転送されません。

- ▶ 計測データをPCへ転送するには、計測データのアイコンをダブル・クリックします。(詳細は、ComSoftソフトウェア取扱説明書を参照してください)



521 526

3.4 testo521/526のメイン画面(プロパティ)



▶ メインメニューの「計測器」→「メイン画面呼出し」を選択します。

❗ 「メイン画面呼出し」の機能は、接続がオープンされ、接続機器名が反転表示されている状態の時だけ有効になります。もしそうでない場合は：

▶ まず最初に、接続機器名をダブルクリックして接続をオープンし、その後に、「計測器」→「メイン画面呼出し」を選択してください。

– testo521/526をプログラムするためのウィンドウが開きます。

521



526



3. 使用方法



521



526

全般タブのウィンドウ(メイン画面)の左側には、操作ウィンドウ名とそのアイコンが表示されます。

希望のアイコンをマウスでクリックし、目的の操作ウィンドウに切替えます。

3.4.1 「計測器」ウィンドウ

計測器ウィンドウには、testo521あるいはtesto526に関する概要情報が書かれています。

このウィンドウは情報表示用のウィンドウであり、計測器の操作・設定はできません。

521

526

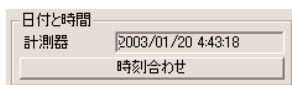


521 526

日付と時間

testo521/526に設定されている日付と時間が表示されます。

▶ 「時刻合わせ」ボタンをクリックすると、testo521/526の日付と時間をPCの時計(日時)に合わせることができます。



3. 使用方法

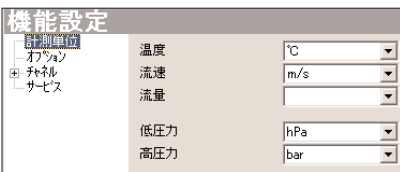
3.42 「機能設定」ウィンドウ

機能設定ウィンドウでは、testo521/526に関する各種の設定を行います。

521



526

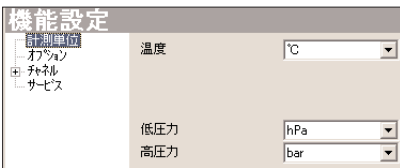


521

計測単位

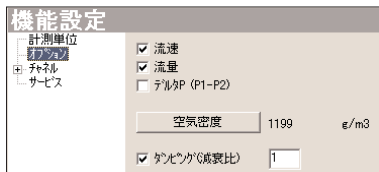
testo521では、温度、流速、流量、圧力(高圧、低圧)などの単位を選択します。

testo526では、温度、圧力(高圧、低圧)などの単位を選択します。



526

3. 使用方法



521

オプション(testo521)

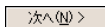
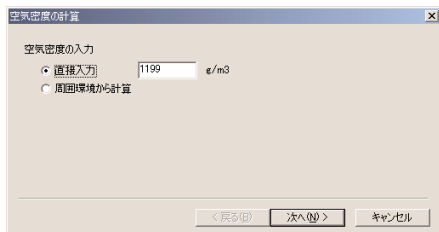
オプションをクリックすると、流速、流量、デルタP等のパラメータを選択できます。

521



「空気密度」ボタン

「空気密度」ボタンをクリックすると、空気密度設定用のウィザードが開きます。空気密度の設定は、空気密度を直接入力する方法(空気以外のガス等に有効)と、温度/湿度/気圧などの周囲環境から演算で求める方法の2通りの方法が可能です。

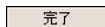
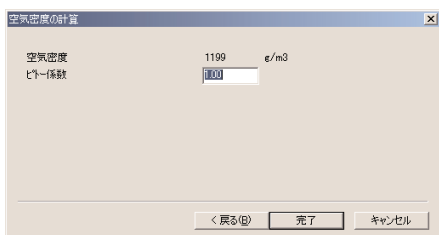


①空気密度の直接入力

「直接入力」を選択し、空気密度を直接、g/m³単位で入力します。

「次へ」ボタンをクリックして、

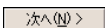
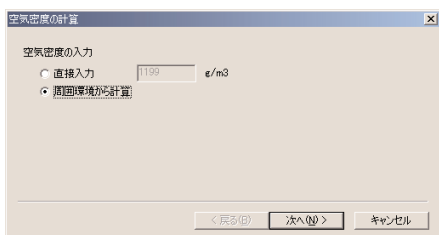
ピトー管係数を入力します。



「完了」ボタンを押します。

②温度/湿度/気圧等の周囲環境から空気密度を演算

「周囲環境から計算」を選択し、



「次へ」をクリックします。

3. 使用方法

空気密度の計算

周囲環境

相対湿度 20 %RH
温度 20.0 °C

気圧(ダクト内)

直接入力
 標準気圧(1013hPa)
 気象気圧を使用

1013 hPa

< 戻る(B) 次へ(N) キャンセル

空気密度の計算

空気密度 1163 e/m3
ピトー係数 1.00

< 戻る(B) 完了 キャンセル

空気密度の計算

周囲環境

相対湿度 20 %RH
温度 20.0 °C

気圧(ダクト内)

直接入力
 標準気圧(1013hPa)
 気象気圧を使用

1013 hPa

< 戻る(B) 次へ(N) キャンセル

空気密度の計算

海拔高度 340 m
ダクト内との圧力差 101 hPa

< 戻る(B) 次へ(N) キャンセル

空気密度の計算

空気密度 1163 e/m3
ピトー係数 1.00

< 戻る(B) 完了 キャンセル

温度/湿度/気圧の入力画面が表示されますので、それぞれの値を入力します。

気圧(ダクト内気圧)については、

- 気圧を直接入力
- 標準気圧と海拔高度から計算
- 気象気圧と海拔高度から計算

の3通りの方法から選択できます。

a) 気圧を直接入力

「直接入力」を選択し、あらかじめ気圧計等で計測しておいた計測場所(ダクト内)の気圧を直接入力し、「次へ」をクリックします。

ピトー管係数の入力画面が現れますので、係数を入力します。

b) 標準気圧(1013hPa)と海拔高度から計算

標準気圧(海拔高度0mにおける年間平均気圧: 1013hPa)と海拔高度から、計測場所の気圧を計算します。

「標準気圧(1013hPa)」を選択して、「次へ」をクリックします。

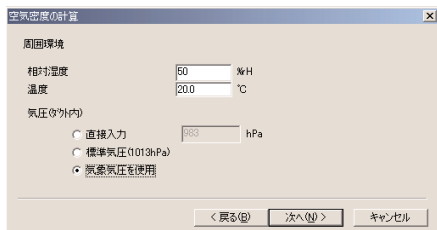
「海拔高度」の欄には、計測場所の平均海面からの高度を入力します。

「ダクト内との圧力差」の欄は、計測場所がダクト内等の場合に、周囲気圧と計測場所との差圧を入力します。

「次へ」をクリックします。

ピトー管係数の入力画面が現れますので、係数を入力します。

3. 使用方法



空気密度の計算

周囲環境

相対湿度 50 %H

温度 20.0 °C

気圧(外内)

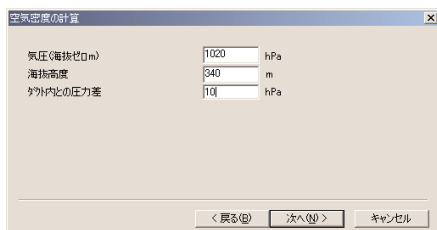
直接入力

標準気圧 (1013hPa)

気象気圧を使用

993 hPa

< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル



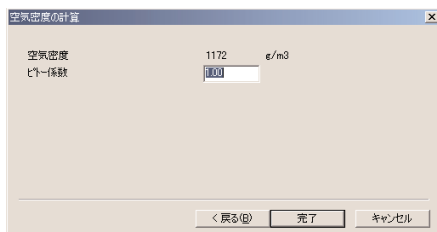
空気密度の計算

気圧(海拔ゼロm) 1020 hPa

海拔高度 340 m

ダクト内との圧力差 110 hPa

< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル



空気密度の計算

空気密度 1172 e/m³

ピトー係数 1.00

< 戻る(B) 完了 キャンセル

完了

c) 気象気圧と海拔高度から計算

気象気圧(海拔高度0mにおける気圧。近辺の気象台にお問合せください)と海拔高度から、計測場所の気圧を計算します。

「気象気圧を使用」を選択して、「次へ」をクリックします。

「気圧(海拔ゼロm)」の欄には、気象気圧(近辺の気象台にお問合せください)を、「海拔高度」の欄には、計測場所の平均海面からの高度を入力します。

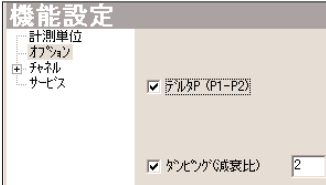
「ダクト内との圧力差」の欄は、計測場所がダクト内等の場合に、周囲気圧と計測場所との差圧を入力します。

「次へ」をクリックします。

ピトー管係数を入力します。

以上の入力が終わったら、「完了」をクリックします。

3. 使用方法



526

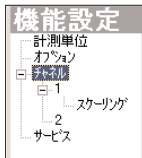
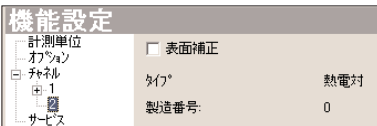
オプション(testo526)

オプションをクリックすると、デルタP、ダンピング(計測値の平均化)等のパラメータを選択できます。

521 526

チャンネル

チャンネルをクリックすると、チャンネル単位で、センサからの入力値に応じたスケーリングを行うことができます。



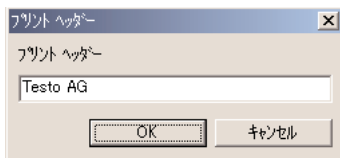
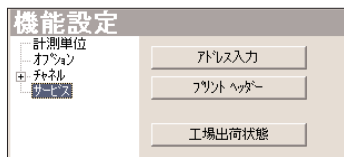
電圧/電流計測ケーブル(0554.0007)、または電流計測プローブ(0554.0528)が接続されているチャンネル番号を選択して、「スケール」をクリックします。



入力範囲(0-20mA/4-20mA/0-1V/0-10V)を選択し、それに対応する表示範囲を入力します。また、表示に用いる計測単位と数値の小数点以下桁数を選択し、「OK」で確定します。

3. 使用方法

521 526



サービス

サービスをクリックすると、ユーザー名、住所、電話番号などのアドレス情報の入力、プリント・ヘッダーの指定、工場出荷時設定へのリセットなどができます。

アドレス入力

「アドレス入力」ボタンをクリックすると、アドレス入力ウィンドウが表示されます。計測器使用者の氏名、住所、会社名、電話番号などを入力して、「OK」で確定します。

各欄には最大24文字(半角)を入力できます。

プリントヘッダー

「プリントヘッダー」ボタンをクリックすると、プリントヘッダー入力ウィンドウが表示されます。赤外線プリンタで印刷を行う際に使用するヘッダーを英数字24文字以内で入力して、「OK」で確定します。

工場出荷時設定へのリセット

「工場出荷状態」ボタンをクリックすると、リセット確認ウィンドウが表示されます。「はい」を選択、クリックすると、工場出荷時設定へのリセットが行われ、すべての設定値が工場出荷時の値に戻されます。

「いいえ」を選択すると、リセットがキャンセルされます。

❗ 計測器のメモリ内容は消去されます。

❗ 言語の設定を再度行う必要があります。

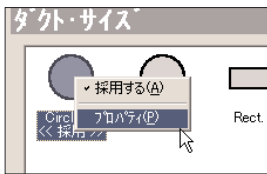
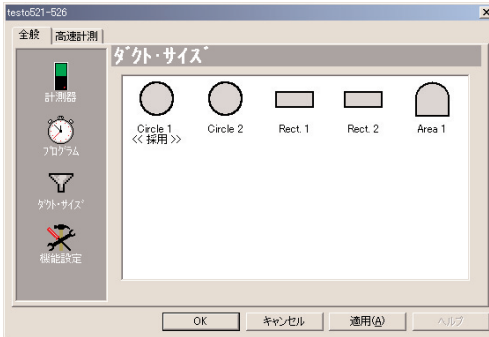
3. 使用方法

521

3.4.3 「ダクト・サイズ」ウィンドウ

「ダクト・サイズ」ウィンドウでは、流量演算に必要なダクト形状、寸法などを入力できます。

計測対象のダクト形状を選択し、クリックします。



ダクト断面モジュールのアイコンを右クリックして、「プロパティ」を選択します。

ダクト形状に応じたプロパティ・ウィンドウが表示されますので、直径・長辺・短辺の長さ、面積などの値をそれぞれ入力します。

下図左が円形ダクト、真中が長方形ダクト、右が特殊形状ダクト用のプロパティ・ウィンドウです。

ファクター値 (O factor) には通常1を入力します。

「OK」をクリックして確定します。



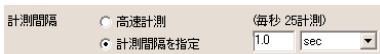
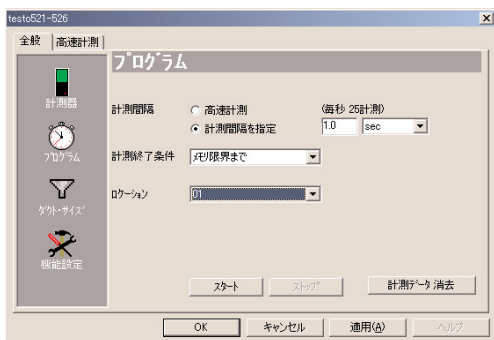
3. 使用方法

3.4 「プログラム」ウィンドウ

「プログラム」ウィンドウでは、testo521/526に計測値の自動保存を行わせる際の各種設定を行います。

521

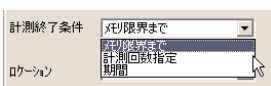
526



計測間隔:

「高速計測」、「計測間隔を指定」のどちらかを選択できます。「高速計測(毎秒25回)」を選択すると、0.04秒の間隔で計測が行われます。「計測間隔を指定」を選択すると、計測間隔を自由に設定して、計測が行えます。

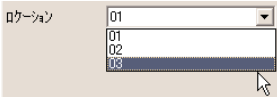
「計測間隔を指定」における計測間隔は、秒単位、分単位、時間単位、日単位のいずれかで設定します。



計測終了条件:

計測を終了する条件を選択します。メモリ限界まで(メモリがいっぱいになった時)、計測回数指定(指定された計測回数に達した時)、期間(指定された時間が経過した時)の3種から選択できます。

3. 使用方法



ロケーション:

計測データを保存するフォルダ (Location: ロケーション) を選択します。

スタート

「スタート」をクリックすると、設定された内容で計測値の自動保存が始まります。

ストップ

「ストップ」をクリックすると、実行中の計測値の自動保存を中断します。

計測データ消去

「計測データ消去」をクリックすると、testo521/526に保存されている計測データが全て消去されます。

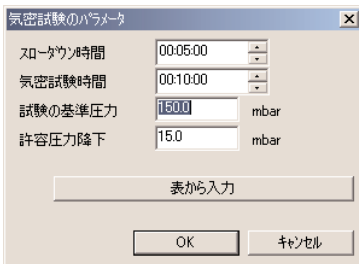
526

気密テスト (Test) のパラメータ

「気密試験のパラメータ」ボタンをクリックすると、パラメータ・ウィンドウが表示されます。

気密試験のパラメータ

気密試験のパラメータ (スローダウン時間、気密試験時間、試験の基準圧力、許容圧力降下など) を入力し、「OK」をクリックします。本ソフトウェアで使用している各種用語は、計測器のディスプレイ上では次のように表示されます:

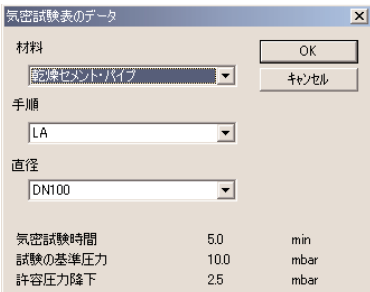


PCソフトウェア	計測器
スローダウン時間	tSIDo Req.
気密試験時間	tTest Req.
試験の基準圧力	P Req.
許容圧力降下	dP Req.

表から入力

DIN EN1610データの適用

「表から入力」をクリックします。



DIN EN1610 (排水および下水設備の建設と試験) に規定された表から、気密試験のパラメータを設定することができます。

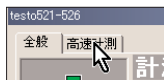
パラメータを選択し、「OK」をクリックします。

3. 使用方法

521 526

3.5 高速計測

「高速計測」は、圧力の急激な変化を動的に捉えるために、毎秒25回という高速で計測・記録を行う機能です。



「高速計測」タブをクリックします。

高速計測ウィンドウが開きます。

高速計測のデータは、縦軸に圧力値、横軸に時刻の、線グラフの形で表示されます。

「Monitor(モニター表示)」のシートには、実際の計測から約2秒遅れて、計測データが更新・表示され、同時にPC内にデータを記録していきます。モニター表示は、「高速計測」が選択されている限り続きます。

一時停止ボタンをクリックすると、「Monitor」での表示・更新は停止しますが、PC内へのデータ記録は続きます。一時停止を解除(開始ボタンをクリック)すると、停止中に記録された計測データも含め、モニター表示が再開します。

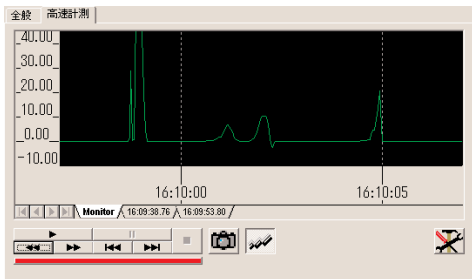
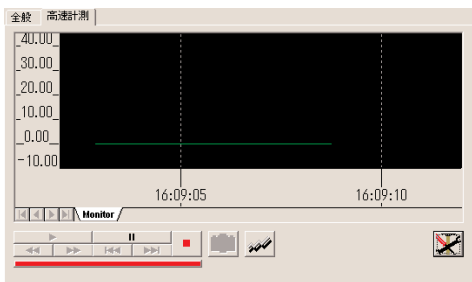
圧力の変動は突然起こります。こうした圧力変動を捉えるため、計測を常時行えば、大量の計測データが発生します。また、その大量のデータの中から圧力変動部分の記録を探し出すのも大変な作業です。

トリガ機能を使用すると、設定したしきい値を計測値が超えた時点から終了条件までの計測データを記録することができます。

また、マニュアル・スナップショット機能を使用すると、ボタンをクリックしてから再びボタンをクリックするまでの任意の期間の計測データを記録することができます。

これらの記録は、スナップショット(特定時点でのデータ)と呼ばれる、それぞれが互いに独立したシートとして保存され、「Monitor」シートと並んで表示されます。

! モニター・ウィンドウを閉じる(「全般」タブ、「OK」ボタン、「キャンセル」ボタンをクリックすると、モニター表示は終了します。



モニター機能



一時停止

「Monitor」表示が中断します。選択できるのは「スクロール」と「遡及スナップショット」ボタンだけになります。



開始

一時停止ボタンで中断した「Monitor」表示を再開します。起動後に選択できるのは、「一時停止」および「マニュアル・スナップショット」あるいは「トリガ」ボタンだけになります。



マニュアル・スナップショット

このボタンをクリックしてから、再びクリックするまでの、任意の期間のスナップショット(計測ログのシート)を作ります。このボタンは、トリガが起動している時は使用できません。



トリガ

圧力の設定しきい値超過をトリガにして、トリガが入る度に自動的にスナップショット(計測ログのシート)を作ります。トリガによる計測開始/終了の条件設定は、(高速計測ウインドウ左側の)機能設定ボタンで行います。



シグナル・フィールド

シグナル・フィールド

計測ログの記録中は緑色に、その他の場合は赤色になります。



スクロール： 1/10幅で時間軸をスクロールします。

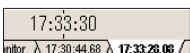
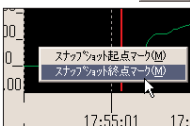


ジャンプ： ログの最初または最後にジャンプします。



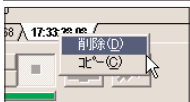
遡及スナップショット

一時停止状態の「Monitor」シートのログ領域をマウスで右クリックして、スナップショットの範囲指定メニューを呼び出します。このメニューから、スナップショットの起点と終点を指定して、遡及スナップショット・ボタンを押すと、その範囲のスナップショット(計測ログのシート)が作成されます。



スナップショットの削除あるいはコピー

削除あるいはコピーしたいスナップショット(シート)のタブ部分を右クリックすると、ショートカット・メニューが開きます。削除を選択すると、そのスナップショットが削除されます。確認のメッセージは表示されませんのでご注意ください。コピーを選択すると、そのスナップショットの計測データが表形式で表示されます。



3. 使用方法

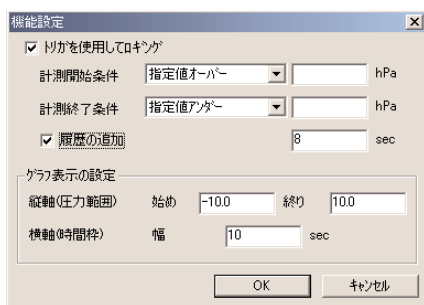
機能設定



機能設定ボタンをクリックすると、設定ウィンドウが開きます。

トリガを使用してロギング

このチェック・ボックスにマークを入れると、トリガ機能でスナップショットを取得する際の各種条件設定が行えるようになります。



機能設定

トリガを使用してロギング

計測開始条件: 指定値オーバー [] hPa

計測終了条件: 指定値アンダー [] hPa

履歴の追加 [8] sec

グラフ表示の設定

縦軸(圧力範囲): 始め [-100] 終り [100]

横軸(時間枠): 幅 [10] sec

OK キャンセル

計測開始条件:

ロギング開始のトリガとなる条件を設定します。指定値オーバーあるいはアンダーのどちらかを選択して、しきい値圧力を入力します。

計測終了条件:

ロギング終了の条件を設定します。指定値オーバー、アンダーあるいはトリガからの時間(秒後)から選択して、しきい値圧力あるいは時間を入力します。

! 計測開始条件と終了条件は論理的に矛盾しないようにしてください。矛盾する設定は無効になります。

履歴の追加:

このチェック・ボックスにマークを入れると、開始トリガ以前の指定秒数(1~10秒)分のデータ履歴をスナップショット・ログに追加します。

! データ履歴の取り込みが始まった直後に、ロギング開始のトリガが入った場合は、スナップショット・ログにデータ履歴が追加されない場合があります。

グラフ表示の設定

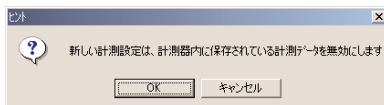
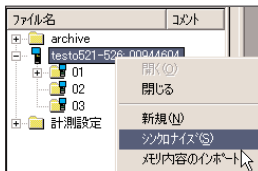
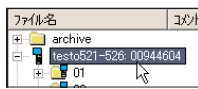
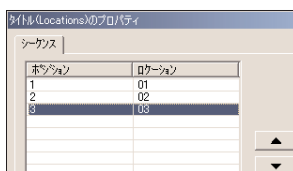
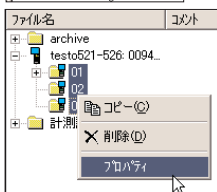
モニター表示画面の線グラフの縦軸／横軸の設定を行います。

縦軸(圧力範囲): 表示する圧力範囲の最小値(始め)と最大値(終り)を入力します。

横軸(時間枠): 表示する時間幅を秒数で入力します。

! 線グラフは設定された圧力範囲(縦軸)と時間幅(横軸)で表示されます。データ(ライン)が時間枠いっぱい(右端)に達すると、表示画面は自動的に(半画面分)スクロールされます。

521 526 3.6 計測器内のLocation(タイトル)表示の順序変更



計測器内に設定されているLocation(タイトル)の表示順をComSoftソフトウェアにより、変更することができます。

testo521-526の計測器アイコンの下に表示されているタイトル(Location)の最初と最後をシフト・キーを押しながらマウスでクリックして、計測器に設定されている全てのタイトル(Location)名を反転表示させます。

反転表示しているタイトル上でマウスを右クリックすると、ショートカット・メニューが表示されますので、「プロパティ」を選択します。

「タイトル(Location)のプロパティ」ウィンドウが開きます。

ロケーション欄にはタイトル(Location)の名称が、ポジション欄には計測器上での並び順が表示されます。

変更したいタイトル(Location)を選択して、上下の矢印キーでそれを動かします。

全てを移動したら、「OK」ボタンをクリックします。

計測器アイコンを右クリックします。

表示されたショートカット・メニューから、「シンクロナイズ」を選択します。

「新しい計測設定は、計測器内に保存されている計測データを無効にします」という警告メッセージが表示されます。

「OK」を選択すると、データは全て削除されます。

計測器のメイン・メニューで「Location」を選択した時に表示されるLocation(タイトル)名の表示順が、新しく設定した順番に変わります。

! ソフトウェア上で計測器アイコンの下に表示されるタイトル(Loc.)の順番は変わりません。(常にタイトル名称を昇順に並べた状態です)

4. トラブルシューティング

4. トラブルシューティング

エラー状態	考えられる原因	対策
計測器にLocationの順序変更が反映されていない。	計測器とPCが同期していない。	「シンクロナイズ」をクリックして計測器とPCの同期を取ってください。
高速計測:エラー・メッセージ。 「接続が中断しました。障害を取り除き、OKボタンを押してください」	接続されていない。 バッテリーが空である。	原因を究明して、修正してください。
全般タブ-プログラム:エラー・メッセージ。 「最大サンプル間隔は%です」	計測間隔の設定が大きすぎる。	設定値を許容範囲以下にしてください。
高速計測:遡及スナップショット時のエラー・メッセージ。 「マークが無効または存在しません」	起点/終点マークの設定がされていない。または矛盾している。	スナップショットの起点マーク/終点マークを正しく指定してください。
高速計測:機能設定ウィンドウでのエラー・メッセージ。 「入力は無効です」	トリガ値の設定が論理的に矛盾している。	設定を変更してください。

上記の対策を実施しても問題が解決しない場合、あるいはここに記述されていない問題が発生した場合は、テストの各営業所までご連絡ください。

株式会社 テストー

本社営業部：〒222-0033 横浜市港北区新横浜2-2-15 パレアナビル7F
TEL. 045-476-2288 FAX. 045-476-2277

大阪営業所：〒530-0055 大阪市北区野崎町7-8 梅田パークビル9F
TEL. 06-6314-3180 FAX. 06-6314-3187

ホームページ: <http://www.testo.jp>
e-mail: info@testo.co.jp